

総合専門医の育成推進

心身や生活を含めて診察

県内指導医 研修ノウハウ共有で初会合

臓器ではなく患者の心身や生活を含め診察する「総合診療専門医」を増やそうと、専門医研修を実施している県内の医療機関の指導医らが集まり研修プログラムやノウハウを共有する初会合が、関市平和通のせきてらすで開催された。



総合診療専門医の指導医が集まって取り組みを共有した会合。関市平和通「せきてらす」

総合診療専門医は、日本専門医機構が育成に乗り出し、2021年に1期生が誕生した。県内ではこれまでに6人が専門医研修を終えたが、医師不足に悩む地域のニーズに比べ、専門医研修を受ける専攻医（旧後期研修医）はまだ少ない。

会の発起人で、岐阜大学院医学系研究科で総合内科を担当する森田浩之教授は「指導医の横のつながりにより教育力を高め、専攻医の増加や、地域のプライマリケア（初期医療）の質向上を目指したい」と話す。

県では医療機関6施設で専攻医を受け入れており、岐阜大病院を中心に26の病院・診療所と連携して3年間の研修を実施している。

講習会では指導医ら16人が参加し、各地域に応じた研修や教育法などを紹介。「指導医の苦手が研修の欠点となる」「臨床研究がほとんどできない」といった課題も挙げた。

また愛知など県外の専門医研修を選ぶ研修医（旧前期研修医）も少なくないことから、医学生や研修医に県内の指導医や研修内容、育成実績をPRするホームページの立ち上げなどが話し合われた。